

北アルプス三俣診療所における学生医療ボランティア活動の 清潔・不潔の徹底による医療の向上

代表者 広渡 紫乃 (医学部医学科 5 年)

1. 目的と概要

三俣診療所とは、北アルプスの三俣山荘に併設されている山小屋で、私たちは夏休みに学生医療ボランティアをしています。具体的な活動内容としては、診療所に訪れた患者さんの問診・治療（治療に関してはボランティアの医師・看護師の補佐をします。）や、同じ北アルプスにある山小屋に必要な薬を届けることなどです。

今回のプロジェクト事業の目的は、その診療活動における、清潔の徹底による医療の向上です。そのために、診療時に使う医療器具を滅菌するための滅菌器を購入していただきました。

以前はシュンメルブッシュという滅菌器を使っていました。それは現在一般の病院・医院などの医療機関ではほとんど使われていない機器ですが、ボランティア活動という事で資金的にも余裕がなく、また同時に山荘という特殊な場所であった事から、清潔も高度なレベルまで要求されてこず、学生にとって清潔・不潔についての意識する勉強になるという事から、現在まで更新されずにいました。しかし、昨今の医療の進歩に伴い、いくら山荘という特殊な場所であるとしても現在より清潔のレベルを向上させる必要があると考えられ、今回の事業で医療用小型高圧蒸気滅菌器を導入する事により、診療活動における清潔の向上を目指しています。

2. 実施期間（実施日）

平成 20 年 7 月 21 日 から 平成 21 年 8 月 19 日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業によりシュンメルブッシュというガスを使用して火で殺菌をする滅菌器から、電気で稼働する圧力蒸気で殺菌をする滅菌器に変更する事が出来ました。

また、このプロジェクト事業により、学生の清潔に対する意識を向上する事が出来たと共に、今まで火を使用して行っていた滅菌から、火を使用せずとも滅菌が行えるようになった事から、安全面においても向上が期待できると考えられます。最後に最も大きな成果として、新型滅菌機の導入により診療所を訪れる患者さんに対して使用する機器の清潔の度合いが向上し、感染などの危険性が減るものと考えられます。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業の実施により、上記に示したように診療所における清潔・不潔の意識は高まったと共に、より高度なレベルにおける清潔を作り出すことができるようになったことから、訪れる患者さんに対しても、今までより一層安全な医療を提供できるようになったと考えられます。

また、診療所における安全面に対しても、今迄の古い機器では清潔を作る為に、火を用いていましたが、この機器の導入により火を使用した操作が無くなったので火事などの危険性が減少すると考えられます。



※写真注釈…中央より若干右にある小屋が三俣山荘ならびにそれに併設する診療所。山荘の左後方に見える山は日本百名山にも数えられる鷲羽岳

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

この新しい滅菌器導入は、学生にとっても大変有意義なものでした。これまで使ってきた滅菌器というのは、原始的な作り、仕掛けであったので、私たち学生が清潔・不潔を学ぶのに適したものでありませんでした。しかし、残念ながらそれは現在の医療がスタンダードとする清潔を満たすものでは必ずしもありませんでした。昨今は、医療における安全性の重要性が高まってきており、現状の状態ではいけない、というボランティアの医師からの意見、学生からの声は高まる一方でした。今回、このような機器を導入した事によって、清潔のレベルは大きく向上しました。

結果、学生がボランティアを募り一緒に活動を行っている医師・看護師からも、大きくこの滅菌器導入に関しては評価されています。



※写真注釈…左: 診療所に置かれた新しい滅菌器



右: 滅菌機の蓋を開けたところ

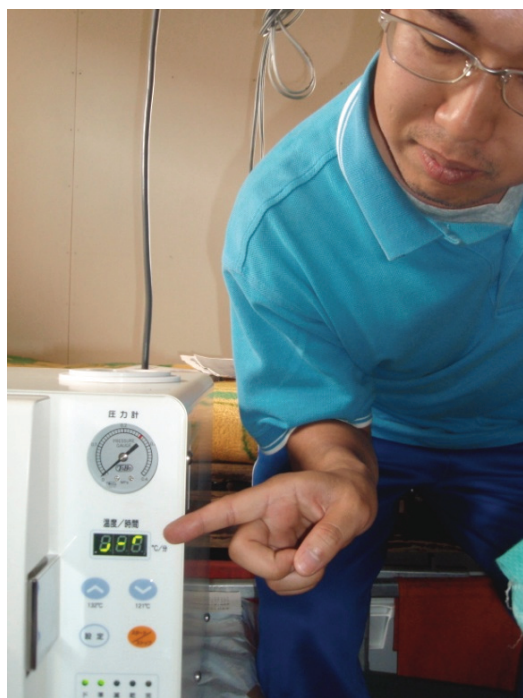
6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

今回、滅菌器を導入した事により、より高度な清潔な状態を安全に山荘で作り出すことができるようになりました。これは非常に良いことですが、マイナス面として今まで古典的な機械で行っていた時に、身をもって学ぶ事ができた清潔・不潔の概念が、全自動の機械に任せられた事から、普段病院では見られない滅菌の過程を知る機会がなくなったという事があげられます。しかし、このマイナス点は先輩から後輩へその清潔の概念などをしっかりと伝えていければ問題はないと思います。

今後、さらによりよい診療活動を行うべく試行錯誤していこうと考えていますが、その際、常に三俣診療所は、あくまで山荘に併設された特殊な環境にあるという事を常に頭に置いてやっていきたいと思います。

地上ではありふれた水・電気・ガスのどれもが山では非常に限られたものであります。医療の向上を目指してといて、何でもやっていけるわけではありません。山の下の病院とは大きく異なる環境の中で、登山者の安全や健康を守る立場にある私たちが、機材も限られた中で、どのような活動を行う事が出来るのかをこれからも現場の医師・看護師とも相談していこうと思っています。

試行錯誤を繰り返し、さまざまな取り組みを行いながら、これからも時代に合った学生主体の、登山者の為に活動できる三俣診療班活動を続けていけたらいいと思います。



※写真注釈…左：滅菌機の手入れを指導する先生



右：滅菌機が作動中の状況

7. 実施メンバー

代表者	伊藤 文子	(医学部 2年)	廣渡 紫乃	(医学部 5年)
構成員	杉浦 潤	(医学部 6年)	藤田 香織	(医学部 6年)
	川久保 充裕	(医学部 5年)	西井 和也	(医学部 5年)
	高橋 優美	(看学部 3年)	近藤 由美	(看学部 3年)
	田坂 勅枝	(看学部 3年)	押田 達也	(看学部 2年)
	岸本 優香	(医学部 2年)	鬼頭 明里	(看学部 2年)
	清水 康太郎	(医学部 2年)	戸村 美紀	(医学部 2年)
	巻幡 咲希	(看学部 2年)	山本 加奈子	(医学部 2年)
	吉積 悠子	(医学部 2年)		